



市民病院 ハナちゃん通信

問 市民病院管理課
☎ (48) 5050

医師事務作業補助者（診療クラーク・医療秘書）のお仕事



病院では、医師や看護師、薬剤師などの資格が必要な職種だけでなく、資格が無くても働くことができる職種がいくつかあります。そのなかの1つが医師事務作業補助者という職種です。診療クラークは主に外来診察室で、医療秘書は主に事務所で業務を行っており、どちらも医師の指示のもと、医師との協力・連携を図り、大きく分けて3つの事務を行っています。

- ・文書の代行作成（診断書、主治医意見書、証明書、紹介状など）
- ・各種代行入力（問診票の診療録記録、指導料オーダー、検査オーダー、入院オーダーなど）
- ・外来診察時の案内や説明（次回受診、予約入院、検査、注射、点滴、化学療法など）

直接的な医療行為をすることはできませんが、患者さんと病院側の架け橋となる役割を担い、医師の診察業務をサポートするチーム医療に欠かせない存在です。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎ (41) 4566

No.76 鷺塚湊と矢作川(2)

戦国時代、鷺塚村片山八次郎の先祖は、松平家へ仕える武士でした。片山家の系図・由緒書・過去帳には、この家へ家康の母（於大）の妹、お亀が嫁いできたと書かれています。

片山八次郎は、先祖供養がしたいと武士の身分を捨て、鷺塚村に住み庄屋・廻船問屋となりました。片山家は、幕府の基礎を築いた大名家となっていた人々とも血縁関係があったのです。河川・海には縄張りがあり、八次郎は幕府創成期から明治の初めまで、矢作川・三河湾での廻船問屋仲間の元締めとして活躍しています。

江戸時代に入ると、街道の整備が図られました。東海道には日本一長い矢作橋（岡崎市）が架けられました。この幕府の矢作橋造りを八次郎が引き受けることもありました。1674年のことですが、八次郎は、矢作橋を造る材木5,800本を紀州大杉山で調達し、建設現場へ納めています。

橋は無事完成し、お祝いの三代渡り初めも無事に済みました。ところが幕府勘定所は1676年になっても片山八次郎に支払いをしてくれませんでした。八

次郎は工事に関わった人々が借金などをして困っているから、請負金額どおり支払うよう願書を幕府勘定所に提出しています。提出された片山家の文書は、岡崎市美術館の「矢作川ー川と人の歴史」展で紹介されています。また、「矢作橋修復記録」（『新編岡崎市史料近世下7』）にも掲載されています。1745年の矢作橋普請では、平坂湊の廻船問屋新実半左衛門と市川彦三郎が、八次郎に材木の値段を相談しています。『平坂町誌稿』では、両名の先祖は、鷺塚湊片山八次郎のもとで働いていたことを伝えています。



△矢作橋想像絵図（市史資料調査室作成）